

KSKQ 京橋 おかげさま 通心

2020年12月 『はたらく』 『くらす』 就労移行支援事業所 きょうばし 正真会 生活訓練施設 加光

私たちが暮らす日常や人生の中で、何度となく苦境・逆境に出会います。それは自然災害だけでなく、仕事を失う、大病を患う、家族や大切な人を失うなど、一生に一度の出来事の連続が私たちの人生です。困難を跳ね返す力(レジリエンス)が大切だとよく言いますが、その力の根源は一体どこにあるのでしょうか。

京橋に住んで約20年、これまで週1回の様々なイベントを行ってきましたが、コロナ禍の制限を受け、現在は「がんばろう京橋」のオリジナルTシャツ制作販売(45店舗)、オリジナルエコバックの制作販売(5店舗)など、出来る限りのアイデアを活動に結び付けています。「出来る事をやろう!」という意気込みの前進です。こういったバイタリティは、現職のサラリーマン以前に行っていた設備配管設計の自営業時代、約18年間に培ったものだと思います。

師走を迎え、日に日に寒さが増す季節、皆さまいかがお過ごしでしょうか。「二年は短く、一日は長い。」という大先輩の言葉が年々重さを増します。2017年に始まった法人改革が少しだけ成果に現れ始め、期待に胸を膨らませた2020年度でしたが、それも束の間、コロナの風が一気に社会のカチキチを変えてしまいました。困難な状況こそ人の個性が出るもので、正真会としての人格・品格を自問自答する日々は4月を境に今もなお続いています。



一生に一度、百年に一度 困難と向き合う方の力強さと明るさ



京橋わっくわく手づくり市 報告

前号の管理者挨拶にて少々触れました「京橋わっくわく手づくり市」につきまして、当日の写真や担当者のコメントが整いましたので、ここに改めてご報告を申し上げます。



加光 生活支援員 赤嶺 英俊
親子で来られたり、通りがかった方も来られたりと、こちらが思っていた以上のご来場を頂きまして、沢山の笑顔が咲き誇りました。準備の大変さとコロナ禍の影響で様々な不安もあったのですが、無事に終えて嬉しいです。次回はしっかりとスケジュール調整と準備をして、万全の態勢で臨みます!

きょうばし 就労支援員 田中 涼子
「やってよかったです!」終わった感想としては、本当にこの一言に尽きます。多くの議論や討論をしまりまして、最終的には色々実現しきれなかったこともあるのですが、私たちの目指す「つながり」が実体感でできる場となりました。「こういうことを勇気をもってよくやってくれたね!」とか「本当にやってよかったよね!」という声がたくさん聞かれました。世の中が変わり続けていますが、変わったからこそできることも沢山あると思います。これからも決して諦めず、「できる方法」をみんなで行って、後悔しないようなものを作りたいと思います。

一九九九年九月三日 第三種郵便物承認 毎月(二二三四五六七八)日発行 定価五十円

「加光」見学会のご案内

12月10日(木)●10:40~12:00
12月24日(木)●10:40~12:00
(毎月第2・第4木曜日を予定)

TEL 06-6351-8668 ★ FAX 06-6351-3666
メール kakoh8668@shirt.ocn.ne.jp
HPのお問合せメールフォームから可能です

「きょうばし」見学会のご案内

12月10日(木)●10:00~12:00
12月24日(木)●10:00~12:00
(毎月第2・第4木曜日を予定)

TEL 06-6357-7007 ★ FAX 06-6357-6665
メール kyoubashi@kind.ocn.ne.jp
HPのお問合せメールフォームから可能です

上記日程にて「加光」と「きょうばし」の見学会を開催致します。ご利用をお考えの方、企業の皆様、職員応募をお考えの方など、どなたでもご参加いただけます。お申し込みは、お電話にて、またはFAX・メールにてご希望の日にお名前とご連絡先を記入しお送り下さい。(※本件以外でこちらからご連絡することはございません)

お待ちしております



誰もが人として暮らし、人としての喜びを感じられる社会を創造します。人の歩みを共に喜び、共に学び続けます。

正真会 はSDGsの項目で次の持続可能な開発目標を掲げています

- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 8 働きがいも経済成長も

■編集人■(毎月発行)
〒534-0024 大阪市都島区東野田町5-5-16
京橋おかげさま通心 編集委員会
電話 06-6351-8668

■制作・協力■
NPO法人 チャレンジステージ
HP: www.challesta.com

■発行人■
関西障害者定期刊行物協会
大阪市天王寺区真山町2-2 東興ビル4階

支援の現場のアドバイス風景。ある利用者Aさんが「自分は〇〇をしたい、〇〇に応募したい」と言う、Aさんをよく知る支援員が「あなたは〇〇の方が合っている」と言う。こちら非常に「あるやり取りで、素直に聞いて実践したケース」の方がうまくいきやすい傾向にあります。もちろん、自分の気持ちを買く事も経験や自己理解に繋がりますが、「うまくいかない堂々巡り」に陥ってしまう時ほど、周りの意見を素直に受け入れる事がとても有効なのです。

ひと

京橋の「魅力ひと」紹介

一般社団法人 京橋地域活性化機構
副理事長 **江川 和宏氏**
http://we-love-kyobashi.jp/



京橋の発展に関する様々な活動を企画・運営。具体的には、京橋〇〇づくしの会主催者、We Love 京橋農園管理人、京橋ごもカレー食堂、都島ごもカレー食堂管理人。京橋に住んで約20年、これまで週1回の様々なイベントを行ってきましたが、コロナ禍の制限を受け、現在は「がんばろう京橋」のオリジナルTシャツ制作販売(45店舗)、オリジナルエコバックの制作販売(5店舗)など、出来る限りのアイデアを活動に結び付けています。「出来る事をやろう!」という意気込みの前進です。こういったバイタリティは、現職のサラリーマン以前に行っていた設備配管設計の自営業時代、約18年間に培ったものだと思います。

京橋の魅力というのは、良い意味で「他の流れに乗っていない」点だと思います。下町風情が残る、古き良き昭和のノスタルジックな雰囲気があります。この雰囲気を活かしたイベントを創り出す事が大切だと感じています。たくさんの方が心から喜んでくれるような繋がりがあるのが私の使命でもあります。またやりがいでもあります。



就労移行支援事業所 きょうばし 企業見学会
12月
小金屋食品株式会社様
https://koganeya.biz/

Check
時には大事な周囲の声
チャレステコラム
NPO法人 チャレンジステージ 代表理事 山下 勇雄

スタッフ紹介



入職時期 2020.4
名前 唐仁原光季
担当部署 生活訓練施設
生活支援員 加光

笑顔と感謝のやりがい 私と利用者さんの夢

出身は宮崎県なのですが、地元東部の強い環境にいましたので九州の外に出たいと考えていました。そして「寮がある事」「障害者支援がある事」という条件も踏まえて職を探していましたが、大阪の障害者支援が進んでいるという情報を得て、正真会に出会いました。

当初は就労支援「きょうばし」を希望していましたが、就労の大前提となる生活面の支援が重要だと感じましたので、生活訓練事業の「加光」へ希望を変更しました。面接前に見学では寺村さんの熱意に触れ、「ここはすごく良い施設がある」と確信しました。

もともと、私は臨床心理士のような「人の悩みや不安に対する専門的な導きを行う存在」でもありたいと思っていました。支援の分野でもそう在りたいのですが、各自の個性と考えがあり、なかなか思い通りに人を導くのは難しいと痛感しています。

直近の目標は社会福祉士の資格取得です。いずれはサービス管理者になり、加光を新しくバリエーションアップしていく過程に関わっていきたくと考えています。私の夢は、施設を自分で立ち上げて、正真会と連携しつつ人材交流を広げていきたくというものです。利用者さんの想いを描く夢に限りなく近づける(欲を言えば想いを描く以上の夢を叶えてあげられる)施設として活動を展開したいと考えています。

加光 地域移行支援員 萩田拓也



唐仁原さんのすごいと思うところは、決まったことや、やりうとしたことはすぐ行動に移しているところです。いつも助けていただいています。今後も一緒に加光がいけないことばかりです。今後は一緒に加光

株式会社 大源味噌様 https://daigen-miso.co.jp/

前向きな仕事、 真心ある仕事

11月19日、前回の見学先である株式会社遊企画 施会長のご紹介により、株式会社大源味噌様で見学会を開催いたしました。また、施会長にはオプザーバーとしてご参加頂き、要所においてとても有意義なご感想やアドバイスを頂戴いたしました。

見学会は自己紹介タイムを経て、職員は自己紹介タイムをお話へ。江川さんは「医者で考えたとしたテレビ番組を自にして、「味噌」に関心を抱く事になりました。現在、江川さんは接客・電話応対・通販運営を行っており、発送業務、飲食店への配達、バックルームで樽やカップへの詰め込み作業など、様々な分野の実務を担当。味噌は満タンになると20キロもあるという事で、かなりの体力勝負。それでも、味噌屋の仕事は自分に合っているという江川さん。現職までには多くの転職をしておられます。紆余曲折ありましたが、「辞めたい理由を考えるより、続ける理由を考える」と考えてから、前向きに仕事のやりがいを見出す



最後はガッツポーズで記念撮影

企業見学会



大源味噌様 本店の外観

次回開催★12月 小金屋食品株式会社様 <https://koganeya.biz/>

社長・社員の「働くとは? 仕事とは?」



株式会社 大源味噌
代表取締役 安齋 善行氏

腸内環境の共生が意味するもの

味噌は、腸内環境の改善に大きく役立つ食べ物です。この腸内環境というものは、「人間は腸によって動き、考えている」と言えるくらい大切なもの。セロトニンなどの精神安定の神経物質を出す役割を果たす腸内環境です。腸内に共生する約100兆もの小さな細菌たちが、「お互いに支え合って」、「穏やかな環境を整えてくれる」からこそ、私たちは心も体も健やかにいられるのです。

そうした腸内環境の視点からふと振り返ってみますと、私は「自分自身の環境」を整えていなかったように感じています。1965年、酒屋に生まれた私は、なかなか厳しい父から「良い子になれ」と言われ続けました。自分の名前が「善行」なのですが、「お前は悪行だ」などと言われて、罰として真っ暗な酒蔵に閉じ込められてしまう事もありました。やがて、そんな善行少年は知恵を付けました。大人の前でも上手に立ち回り「良い子」を演じるという技術を身に付けます。ちよつと、ずるがしこい子だったのかも知れません。

その後も「周囲を上手くコントロールする」という力がありまして、学生時代には人気者、バブル期の波に乗ってサラリーマンの世界に入ってからも仕事は上手くやっていたのですが、43歳の時にふと客観的に自分を振り返って愕然としました。自分が自己中心的で傲慢であり、人の立場を思いやる事なく、いつも高圧的・一方的に統制しているだけだったという事に気付いたので、プライベート面での離婚とも重なりまして、仕事としても、人間としても「真心を持ち、お互いに支えられ、環境」を築く為に努力をする事が大切だと、今では考え直しています。

人が思いやり合っている仕事、支え合っている社会です。この点を強く意識しながら、今後私は腸内環境の共生の姿と同じように、真心ある姿勢を改善し続けたいと思います。

イベント情報

元来お正月は、「年神様(としがみさま)」と呼ばれる豊作と健康の神様を家庭にお迎えする特別な日です。魔除け・活力・たくさんの方の幸せを願って、「手作りのしめ縄」で吉兆の神様を家に歓迎し、瑞々しく晴れやかな新年を迎えてみませんか?皆さま、ぜひお越しください!

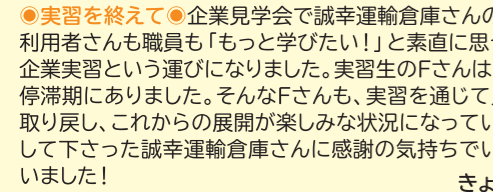
加光 生活支援員 赤嶺 英俊

職場実習 Fさん

誠幸運輸倉庫株式会社様

●実習を終えて●企業見学会で誠幸運輸倉庫さんの社風やその魅力を知り、利用者さんも職員も「もっと学びたい」と素直に思っていました。念願叶って企業実習という運びになりました。実習生のFさんは、就活スイッチが入らない停滞期がありました。そんなFさんも、実習を通じて見る見る内に目の輝きを取り戻し、これからの展開が楽しみな状況になっています。人の心に熱意を灯して下さった誠幸運輸倉庫さんに感謝の気持ちでいっぱいです。有難うございました!

きょうばし サービス管理責任者 寺村 肇



今月のひと ●OB・OG紹介 season3 第4回 「転落期」

井上和夫氏 (全5回) 「人間とは呼べない時期」

人は、成長と失敗の繰り返しです。そうした繰り返しの中で、私たちは考えます。働く事とは何なのか、生きる事にはどういう意味があるのか、と。時に、壮絶な経験を乗り越えた方は、人としての厚みと深みを獲得し、その質問に対する答えを持ち得ます。そのような方の歩みは、私たちに多くの学びをもたらしてくれるのです。本稿は、「井上和夫氏」の人生と想いを4回に渡って連載する、その第3回。井上氏の人生にある大きな四つの区切り、「努力期」「達成期」「転落期」「再生期」、その激動の第三シーズンの物語です。

まさに怒涛のごとく食産業を駆け抜けた井上氏。経営者として現場を指揮しながら、プライベート面でも33歳で結婚して2人の子どもにも恵まれ、まさに人生の頂点に立っていました。しかし、あまりに苛烈な仕事人間と化した井上氏は、連続18時間勤務という状態を日常とし、お酒の力に頼りながら睡眠を取るだけに家に戻る生活に陥ります。そのような「健やかさ」からかけ離れた生活の破綻が遂に訪れます。52歳、脳出血で緊急搬送されてしまったのです。

過労死の直前で生還を果たすも、それは悲劇の始まりに過ぎませんでした。退院をした後も悪化の一途を辿るアルコール依存症という悪夢。この時期、立て続けに母(享年72歳)・父(享年82歳)・妹(享年50歳)を失い、家族からも見放されて知らぬ間に離婚手続きが進行。まともな思考も言動も出来ない混沌の毎日。「人間とは呼べない時期」であったと、井上氏は回想をしています。

仕事人どころか人間としても転落し、どん底に落ちてしまった井上氏。献身的な姉の支えがなければ、彼は再生をする事が出来なかつたかもしれません。

きょうばし OB・OG会

きょうばしのOB・OGがホッと安心する場所、帰れる場所。個人が人として成長して学んでいける場。それが、「楽しむ、学ぶ、伝える」のコンセプトのもとに生まれた「Thyme(タイム)」です。

〈11月Thyme 実施報告〉

11月8日にThymeメンバーと現利用の方でUSJに行きました!普段味わえない体験をみんなで味わう事が出来ました。働いていくなかで、息抜きをすることの大切さを学べたと思います。現利用者の方も働いているOBの生の声を聴き、働くことについて考える良い機会でした。

〈はたらくについて考える会〉

【日】にち
2020年2月6日(土)(時間未定)
【会場】
Caféまほろば
(大阪市都島区東野田町5-5-1)
【お問合せ】
06-6357-7007

きょうばし 就労支援員 出口 奈々恵

今月の利用者さん

実践から発見できるもの
～人から必要とされる存在へ～

Uさん

2019年5月、利用を開始しました。担当部署は喫茶です。もともとは北部地域就業生活支援センターのご紹介でした。「部署が多彩、好きな接客業務、週1回の面談」に魅力を感じました。

今、私は考えるだけではなく、実際に働くという事が大切だと感じています。職場実習を受けてみて、より自分の得意・不得意が具体的に見えてきたと思います。例えば、事務作業は同じ繰り返しだと思って敬遠していましたが、意外と柔軟な作業も必要なのだ気づきました。

今後の課題は、メンタルの弱い部分の改善です。気持ちの切り替えが大切です。そうして自分をしっかり保ちながら、いずれは人から必要とされる存在として活躍できるようになりたいと思っています。

自己理解が乏しい状態で、漠然と「働きたい」一心で「きょうばし」の利用が始まりました。人前でいい子ちゃんになっていても、心の中はそうでないこともあり、感情が揺さぶられる場面も多くありました。でも、そうした部分は徐々に改善されて、今は「自分の心の中がこうなんだ」と言えるようになってきています。成長を感じます。これからも経験を重ねて、なにかを変ええるキッカケ、良い出会いやご縁を得ていきたいな、と思っています。

支援者 田中 涼子

ひと 関係機関様の「魅力ひと」紹介

このコーナーは正真会が日頃お世話になっている関係機関の方々が登場していただき、現場に関わる中での課題や想いなどを語っていただきます。

真の日本の
児童福祉体制へ向けて

大阪人間科学大学
心理学部 心理学科
助教 荒屋 昌弘 氏

私は大学院で心理療法士として児童養護施設に訪問をしていました。そのご縁で、卒業後はそちらで勤務するようになりました。将来のモデルが周囲に見当たらないという現代の子供たち。模索の日々が続く中で、経営者の集まりを通じて正真会の寺村さんにご縁を頂きました。その後、ただがむしゃらに働く毎日が過ぎる中で40を過ぎ、改めて「このまま進んで良いのか?」という気持ちを抱くようになりました。自分が携わっていた現場から離れる事には罪悪感もありましたが、今こそ自分が本当に成すべき世界へ足を踏み入れなければならないと決心をし、現職に至りました。

これには社会的なタイミングというのもありました。2016年、児童福祉法が改正となり、支援の在り方がまさに変わり始めていたのです。「安心安全」を中核とした真の支援が築かれ始めた日本の児童福祉。その帰路の時代に、自分が一石を投じることができないかなど考えたのです。

今、正真会さんとは、3年生の学生インターンシップの連携を頂いています。学生には実践を通じた学びの場で、「主体性」「信頼」「責任」等の在り方を吸収して頂きたいと思っています。そのように現場を重視した導きをしながら多くの出会いの機会を提供し、児童養護施設で活躍できる人材を育てていきたいというのが私のビジョンです。